

令和 7 年度(2025年度) 第 1 回 函館市地域学校協働活動連絡会議 会議録

日 時	令和 7 年 5 月 1 日 (木) 10:00～12:00
場 所	函館市役所 8 階第 2 会議室
参加者	四戸委員, 梅田委員, 京谷委員, 酒井委員, 齊藤委員, 吉村委員, 干山委員, 梶原委員, 阿久津委員, 郷六委員, 松浪委員, 高田委員, 神田委員, 建部地域コーディネーター (14 名)
事務局	吉田指導監, 中田教育政策課長, 山本主査, 田口主査, 石川主任主事 (5 名)
傍 聴	なし

1 開 会

(事務局)

本日はご多用の中, お集まりいただきありがとうございます。ただいまから, 令和 7 年度第 1 回函館市地域学校協働活動連絡会議を開会いたします。

本会議につきましては, 函館市情報公開条例第 21 条の規定に基づき原則公開となります。本日の議事等につきましては, 非公開となる内容がないと考えられますので, 全ての会議が公開となりますがよろしいでしょうか。

ー異議なしー

会議終了後には, 発言要旨を取りまとめた会議録を作成し, 公表することとなっております。会議録の内容については, 公表前に, 発言のあった委員に確認していただく予定でありますので, よろしくをお願いします。

また, 今年度から, 本市の地域学校協働活動のより一層の推進を図るため, 地域コーディネーターとの連絡調整や地域コーディネーターの育成等を担う統括地域コーディネーターを配置しており, 南本通小学校と本通中学校の地域コーディネーターであります神田委員に就任いただいております。

ー神田委員挨拶ー

続きまして, 今年度より新たに活動していただいている地域コーディネーターもいらっしゃいますので, 皆さまからもお一人ずつご挨拶をお願いしたいと思います。

ー全委員挨拶ー

令和7年度につきましては、31校計20名の地域コーディネーターの皆さまにご活動いただくとともに、本会議の委員として、本日も含め、年3回程度会議へのご出席をお願いいたします。

2 座長の選出

(事務局)

続きまして、次第2「座長の選出」に入ります。資料2「函館市地域学校協働活動連絡会議設置要綱」第5条第2項の規定により、座長を委員の互選により定めることとなっております。それでは座長の選出につきまして、委員の皆様にお諮りいたしますが、いかがいたしましょうか。

ー提案・立候補なしー

よろしければ、事務局から提案させていただきたいと考えますが、よろしいでしょうか。

ー異議なしー

異議がないようなので、事務局から提案させていただきます。座長につきましては、南本通小学校と本通中学校の地域コーディネーターであり、統括地域コーディネーターでもあります神田委員にお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

ー拍手ー

ご承認いただきありがとうございます。あわせて、要綱第5条第4項では、座長に事故等があるときは、あらかじめ座長の指名する委員がその職務を代行するとしておりますが、神田座長、いかがでしょうか。

(神田座長)

座長職務代理者は、酒井委員にお願いしたいと考えております。酒井委員、よろしいでしょうか。

(酒井委員了承)

どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

それでは、ここからは神田委員を座長として会議の進行をお願いいたします。

3 趣旨説明

(神田座長)

それでは、次第3「趣旨説明」について、事務局からご説明願います。

(事務局)

私から、本市の地域学校協働活動についてご説明いたします。お手元にご置きます資料5をご覧ください。

(※ 資料に沿って説明)

～休憩～

(神田座長)

ここで、一旦10分の休憩をとりたいと思います。

4 今後の方向性等に係る検討

(神田座長)

定刻となりましたので、会議を再開させていただきます。

それでは、ここからは次第4の意見交流（今後の方向性等の検討に係るグループワーク）を行っていきます。

まずは、今年度初めて地域コーディネーターとなる方もいることから、グループ間で「地域コーディネーターとはどのような存在か、共通認識として持つべき志について」、そして「今後の地域コーディネーターのビジョン、目指すべき将来像」の2点について意見交流をし、机上の模造紙とふせんを使ってどんどん意見を書き出してください。継続地域コーディネーターの皆様は、今まで行ってきた活動の内容や、どんな思いで地域コーディネーターの活動をしているかなども合わせてお話しいただければと思います。今年度新たに地域コーディネーターになられた皆様は、先輩方にどんどん質問していただき、交流を深めていただければと思います。

ここで、グループワークを行う上での留意点について2点お伝えします。1つ目は、他者の活動や思いに対する否定的な発言等はお控えください。2つ目に、グループ内の全員が発言の機会の均等を意識してください。この2点について、よろしくお願います。11時30分頃を目途に、各グループで話し合われた内容を4分程度で発表していただきますので、あわせて発表者も決めておいてください。それでは、各グループで話し合いを進めてください。

－意見交流－

（神田座長）

では、定刻となりましたので、Aグループから順に発表をお願いします。

（京谷委員）

Aグループの発表をさせていただきます。まず、地域コーディネーターとはどのような存在だろうというところで、地域の人材を活用したり、人と人とをつなげたり、学校が相談できる存在ということが主に出てきました。

地域コーディネーターとして、その年ごとに学校管理職の方針を踏まえつつ、子どもたちにはこういう経験が必要ではないかということのをさりげなく提案していけることが大事なことだと思い、そのための人材不足を補うための工夫を考えて活動につなげる存在ということでもとまりました。

実際の活動については、学校支援の面では、様々な学習活動のサポーターの調整や、認知症サポーター講座、七夕イベント、家庭科の授業補助など授業へとつながる活動と、地域と連携した活動については、ボランティアのマッチング、SDGsを意識付けるイベント、PTAや地域とともに子どもたちがつながるような企画を今後進めていくというところでした。

ただ、活動を進めていく中で、活動中の事故への懸念などに直面することもあるので、関係者と相談することが大事だと思いました。

これらの地域学校協働活動にあたっては、子どもたちが地域で様々な人と交流し様々な経験をすることで、地域で子どもたちを育ていけるような活動を企画していこうという思いで活動していて、その中でも学校以外の人との交流に一番の重きを置くようにしていて、それらの交流を通して子どもたちが自分の住んでいる地域を大事に思えるような愛郷心であったり、大人との交流を通して我慢する力や社会性を身に付けていってほしいという思いが強くなります。それ以外にも、学校の先生以外の大人に評価してもらえということとはとても大事な機会なので、これからも地域の人との交流を核にしていけたらいいなという思いを持っています。

地域コーディネーターの将来像についてですが、地域と学校の垣根を越えて人と人とをつなげていきたいというビジョンを持っています。どのような活動をするにあたって、その年の学校管理職の思いや価値観、子どもの雰囲気、その子どもたちの親の価値観などによって、求められることは違うので、その時に求められていることや課題に合わせて活動していくために、多少流動的にしておくことで継続した活動になるのではないかという話になりました。

ただ、先生の勤務時間によってお話しできる時間が限られてしまうので、その部分

は考えていかなければいけないなというところでした。学校の困りごとに対し、解決策となるような活動をしたいけれど、なかなか打ち合わせをする時間がないとなると、学校と何を目標せばいいのだろうかと迷ってしまうこともあるという話題もありました。ただ、「一番は地域で子どもを大事に育てていくという思いはぶれずにやっていきたいですね」というところで終わりました。以上です。

（齊藤委員）

Bグループです。Aグループの話であらかた結論は出たのではないかと思いますのですが、我々のグループでは、今実働している活動をベースに色々お話をさせていただいて、やはり最終的な結論としては、学校側が求めていることと我々の活動が一致することが一番の正解なんだろうと思いました。

ただ、その中で、実際にそれを実現していくためにどのような方法をとるかということが課題で、やはり予算がないというところが切ないです。ボランティアに100人来てもらってお茶1本出すだけでも1万円を超える時代になってきている中で、活動を継続していくためには最低限の活動資金の捻出はこれから先の運営側の課題となると思います。いかに子どもを地域で育てるかではなくて、函館市というところで育て、そして最終的に函館市を育む人材になってほしいというのが活動のベースとなっています。学校側がやりたいけれど、なかなか学校の人材では難しいというところに我々が協力していくものだというのが結論でした。以上です。

（干山委員）

Cグループです。色々とグループ内で話していく中で、どの学校もコミュニティ・スクールは何のためにあるのかということ、コミュニティ・スクールに参加している人全員に共有できているのかという話が出ました。学校運営協議会するとき、なぜ自分は委員になっているのかを理解して参加している人は少ないと思います。それは、この組織はこういうことのために存在しますというのを説明する人がいないからだと思っています。学校が説明するものなのか、我々地域コーディネーターが説明するものなのか、いずれにしても、その活動は子どもたちのためにするものなのか、地域のためにするものなのか、学校のためにするものなのか、何のためにこの活動をするのかという共通理解を深めていかないと、どんな行事やイベントを実施しても、全部中途半端に終わってしまうので、まずはその共通理解を深めていく必要があります。

他のグループでは、地域の子どもは地域で育てるという話も出ていましたし、函館を育てる人材を育てるという話も出ていましたが、地域の子どもは地域で育てるという漠然とした思いではなくて、もう少し具体的に、何のために我々は今集まっているのかということをしっかり伝えていくこと、そして参加している人が全員同じ思いで同じ方向を見ているという共通認識を持つことが非常に大事で、活動内容というのは

そこから先のことだと思います。地域の見守り活動でも、七夕の活動でも、地域のお祭りに参加しようでもよいのだけれど、どんな活動かは二の次、三の次で、一番大事なのは何のために我々は子どもたちのために考えるのか、地域のためだったり学校のためだったり、それはそれぞれのコミュニティ・スクールでの考え方がありますので、それぞれで目的意識というのを考えてもらえればよいと思います。

我々地域コーディネーターの役割として、地域と学校をつなぐパイプ役という話も出ました。我々の方から学校に活動を提案していくものなのか、学校がこういう活動をしたいから我々地域コーディネーターに相談してくるものなのか、色々やり方はあると思うのですが、学校運営協議会の熟議の中で、子どもたちにとってこういう活動が大事ではないのかという声が上がって、学校も「そうだね」となった時に初めてみんなで動いて活動にしていくというのが理想だろうと思います。そのために、コミュニティ・スクールのあり方や、子どもを育てるために何が大事なのかということを含めてみんなで話し合っ共有する熟議をして、それには何が必要だという共通認識が生まれれば、うまく活動も回っていくだろうと話し合いました。以上です。

（神田座長）

皆様、貴重なご意見ありがとうございました。

皆様のご意見を伺って、私も色々思うところがありました。今、函館は人口が減少し、少子高齢化も進み、色々なところで弊害が出てきていると、身に染みて感じていらっしゃる方もたくさんいると思います。

そんな状況下で地域学校協働活動をしていく中で、皆さんの熱い思いを感じましたし、コミュニティ・スクールを活用してどんな子どもたちを育てていくのかということを含めて話し合っ子どもたちに自分の家族以外の地域の大人と接する機会を作っていくことで地域に愛着を持たせていけるようなシステムとしては、このコミュニティ・スクールというものの影響力は大きなものなのではないかと思っています。

ここにいらっしゃる方々は様々な場所で活躍している方々ですので、それぞれのお力をフルに発揮していただくことで、子どもたちにとっても、地域の高齢者にとっても、そして私たち世代にとっても、今回の意見交流のように楽しく話しながら、様々な状況に向き合いつつ活動していき、気がついたら子どもたちが良い方向に向かっていたり、高齢者さんがすごく笑顔で接してくれるようになりたり、健康寿命が伸びたり、一人でいた子がみんなと仲良くやっていけるようになりたりなど、色々な良い結果が出てくると思います。これからもこの地域学校協働活動をどんどん進めていけたらと思っていますので、ぜひお力をお借りしたいのと、私も少しでもお役に立てたらと思っていますので、ぜひお声がけください。皆さんの活動を見学させていただいて、参考にさせていただき、それを皆さんに共有していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。本日はありがとうございました。

本日の次第の内容については以上になりますので、ここからは事務局にお戻しいたします。

(事務局)

神田座長ありがとうございました。

5 閉会

(事務局)

最後に、教育政策課長中田から一言ご挨拶させていただきます。

(中田教育政策課長)

本日は長時間に渡り、会議にご参加いただきありがとうございました。後半は皆様の活発なご意見をお聞きして感激しました。その話の中で気になったことについてお話をさせていただきます。

まず、函館市における目指す人間像として、自律、共生、創造の3つのキーワードがあります。このキーワードをもとに、各学校では地域の実情にあった目指す児童生徒像もしくは学校目標などというものを作っています。このことから、各学校が目指すものがしいては函館の子どもたちのためになるということをやっているのですが、その目指す児童生徒像が果たして学校運営協議会で委員と共有されているのかという点については、干山委員がおっしゃったとおりだと思います。各学校の目指す児童生徒像や学校のねらいに近づくために、学校運営協議会では何ができるのかという熟議が必要なのではないかと思います。もしこの場に担当の先生方が参加していたら、「もっとこういうことができるんじゃないかな」というアイデアがもっと出てきたのではないかと思います。

前半の行政説明の中でもお話ししましたが、「人は人を浴びて人になる」という言葉のとおり、人との交流で子どもは変わります。学校も色々頑張っていますが全てできるわけではありませんので、その学校ではできないところを皆さんのお力を借りることで、子どもたちをより良く育んでいきたいと思いますので、よろしくお願いします。

(事務局)

以上をもちまして、令和7年度第1回函館市地域学校協働活動連絡会議を終了いたします。本日はありがとうございました。